

令和5年10月24日（火）

転んでも（松下幸之助）

「七転び八起き」ということわざがある。何度失敗しても、これに屈せずふるい立つ姿をいったものである。

人生は長い。世の中はひろい。だから失敗もする。悲観もする。そんなとき、このことわざはありがたい。

だが、7度転んでも8度目に起きればよい、などと呑気に考えるならば、これはいさか愚かである。

一度転んで気がつかなければ、7度転んでも同じこと。一度で気をつく人間になりたい。

そのためには「転んでもただ起きぬ」心がまえが大切。このことわざは、意地きたないことの代名詞のように使われているが、先哲諸聖（せんてつしよせい）の中で、転んでそこに悟りをひらいた人は数多くある。

失敗することを恐れるよりも、真剣でないことを恐れたほうがいい。真剣ならば、たとえ失敗しても、ただ起きぬだけの十分な心がまえができてくる。

おたがいに「転んでもただ起きぬ」よう真剣になりたいものである。